

板書計画も含めてA4 4ページで作成して下さい。

第3 学年 理科学習指導案

R 2 年度 那覇市様式

令和 年 月 日 () 校時 14 : 00 ~
(○○小) 学校 3 年 ○組 3 5 名
指導者 ㊦

年間指導計画 (3) 学年 () 月計画 P ()

1 単元の概要

単元・教材名等	太陽と地面の様子	学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年の目標及び内容 2内容」の項目等をそのままよりごとに細分化したり整理したりしたもの。
内容のまとめり	第3 学年 B（2）「太陽と地面の様子」	
単元の目標	日なたと日陰の様子に着目して、それらを比較しながら、太陽の位置と地面の様子を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。	
	(1)「知識・技能」(2)「思考・判断・表現」(3)「学びに向かう力、人間性等」に	

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わることを理解している。 ②地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気の違いがあることを理解している。 ③太陽と地面の様子について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。文末「(理解・記録)している」	①太陽と地面の様子について、差異点や共通点を基に、問題を見いだし、表現するなどして問題解決している。 ②太陽と地面の様子について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。 文末「～している」	①太陽と地面の様子についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ②太陽と地面の様子について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 文末「～(しようと)している」

3 単元について

(1) 児童(生徒) 観

レディネステストの結果などから、今までの学習で身に付いている資質や能力、不十分な点について記述する。
・単元で身に付けさせたい力に対する実態把握について記述する。
・どこでどのようなつまずき(課題)があるかを分析し、指導観に記載する手立てと連動する。

(2) 教材観

単元目標と関連させ、本単元の学習課題を明確にして記述する。
・学習指導要領との関連を示す。
・単元(題材)の学習内容と、そのねらいを記述する。
・適切な単元の構成内容であることを記述する。

(3) 指導観

ねらい達成に向けて、どこで、どのような手立てをするのか、指導のポイントを記述する。
・(1)(2)の記述を踏まえ、子どもの不十分な点を補う手立てを具体的に記述する。
・目標に照らしてその実現状況を観点ごとにどのように評価するのかを記述する。

板書計画も含めてA4 4ページで作成して下さい。

4 単元の指導計画(全11時間)

《形》形成的評価 《総》総括的评价

単元	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
教科によって表し方が違います。指導計画作成の際には、確認の上、記載する。	1	○影ふみをするために、影について知っているを出し合う。 ○影についてもっと詳しく知るために、屋外に出て、影の写真を撮る。	○班ごとに撮影した写真を比較し、各自が問題を見いだす。	【思・判・表】①《形》記述分析 ・差異点や共通点を基に、問題を見いだすことができているか確認する。
		○複数の物を比較しながら調べ、影の形や長さ、向きなどを記録する。	○各自が見いだした問題を基に、学級共通の問題を設定する。	【知・技】③《形》記述分析 ・椅子やカラーコーンなどを用いて、太陽の位置と影との関係を調べ、影の形や長さ、向きなどを分かりやすく記録しているか確認する。
		児童生徒の課題を踏まえ、言語活動を通して、指導事項を指導することを明確にした単元づくりをする。		
	3	○どのようにしたら影ふみがうまくなるのかについて話し合う。	○影ふみを午前と午後の2回行い、体験したことを基に、自分なりの問題を見いだす。	【思・判・表】①《総》記述分析 ・影ふみについての差異点や共通点を基に、問題を見いだし、表現しているかを記録する。
	4	○方位磁針や遮光板を正しく扱いながら、影の動きを観察し、記録する。	各時の学習内容とみとる観点を記載する。 【知・技】 【思・判・表】 【主体的態度】	【知・技】③《総》行動観察・記録分析 ・時間ごとの影の動きについて、方位磁針などを正しく扱いながら調べ、結果を分かりやすく記録しているかを記録する。
	5 本時	○調べたことを基に考察し、学級で結論を導き出す。		【知・技】①《形》記録分析 ・日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わることを理解しているかを確認する。
	6	○影ふみの振り返りを行う。 ○安全地帯(建物によってできる日陰)に入ったときのことについて感じたことを発表する。	○屋外に出て、日なたと日陰の違いを体感する。 《形成的評価》 文末「確認する。」 《総括的评价》 文末「記録する。」	【主体的態度】①《総》行動観察・発言分析 ・太陽と地面の様子についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら、問題解決しようとしているかを記録する。
	7	○体感した明るさ、暖かさ、涼しさ、湿り具合などについて話し合う。	○体感した日なた日陰の違いを基に、各自が問題を見いだす。	【思・判・表】①《総》記録分析 ・日なたと日陰の地面の様子について、差異点や共通点を基に、問題を見いだし、表現しているかを記録する。
	8	○午前10 時と正午の2 回に分けて地面の温度を計測し、結果を分かりやすく記録する。	単元の評価基準と対応していることがわかるように番号をふるとよい。 例 【知・技③】	【知・技】③《総》行動観察・記録分析 ・太陽と地面の様子について、放射温度計などを正しく扱いながら調べ、結果を分かりやすく記録しているかを記録する。
	9	○観察の結果から日なたと日陰の地面の暖かさについて考察し、日なたと日陰の違いについてまとめる。		【思・判・表】②《形》記録分析 ・太陽と地面の様子について、観察、実験などから得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決しているかを確認する。
	10	○これまでに学習したことを基に、「かげふみブック」を作成する。	○時間とともに、影はどのように動くのか、日なたと日陰にはどのような違いがあったのかなど、学習したことをまとめ、影ふみのコツを考える。	【知・技】②③《総》記録分析 ・日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気の違いがあることや日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わることを、これまでの学習とつなげて理解しているかを記録する。
	11	○作成した「かげふみブック」を参考に、再度、影ふみをする。	○「かげふみブック」を見直す。	【主体的態度】②《総》行動観察・記録分析 ・太陽と地面の様子について学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを記録する。

板書計画も含めてA4 4ページで作成して下さい。

5 本時の学習指導について

- (1) 本時の目標
- ・ 1つか2つにしばっているか。
 - ・ 単元目標と合致しているか。

本時の授業のどこで、どのような指導の在り方や方法を提案しようとしているのか、学習指導要領を踏まえて簡潔にまとめる。

- (2) 授業仮説
- 「〇〇〇において、〇〇〇すれば、〇〇〇になるであろう。」
- 場・内容の限定 投入条件 身に付けさせたい力（資質・能力）
- 方法・手だて ねらい・めざす子ども

- (3) 本時の展開（第5時）
- 教材研究や授業展開に沿ってマイノートを活用し、検討する。

	学 習 活 動	指導上の留意点 ○教師の手立て □予想される児童（生徒）の反応	評価項目(方法)
導 入 （ 分	1 <div>具体的な学習活動について、児童生徒の立場から記述する。</div>	<div>○下記の項目を参考にして適宜記載しましょう。</div> <div>・ 本時の目標を確認し、児童生徒に学習の見通しをもたせるような、「めあて」を児童生徒向けの言葉で提示する。</div> <div>・ 児童生徒の学習意欲を促すような資料、問題提示の工夫する。</div>	
	めあて		どの観点でどのような方法で評価するのかを記載する。
展 開 （ 分	2	<div>○下記の項目を参考にして適宜記載しましょう。</div>	
	3 (1) <div>「授業仮説」につながる学習活動は分かりやすく表記する。（例：太字ゴシック体等）</div>	<div>○下記の項目を参考にして適宜記載しましょう。</div> <div>・ 予想される児童生徒の反応と、それに対応した教師の手立てを順序立てて記述する。</div> <div>・ 自分の考えを書く活動を取り入れる。</div> <div>・ ペアやグループ、全体でかかわり合い、学び合う活動を取り入れる。</div> <div>・ 支援を要する児童生徒のつまずきとそれに対応した教師の手立てを書く。</div> <div>〔支援を要する児童生徒への手立て〕</div>	<div>【知・技】</div> <div>《形》</div> <div>〈概ね満足〉</div> <div>・ 日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わること理解している</div> <div>〈十分満足〉</div> <div>・ 日陰の位置は、太陽の位置の変化によって変わること観察した事実と関係づけて、理解している。</div> <div>記録分析 (ノート記述等)</div> <div>・ どの観点でどのような方法で評価するのか記述しましょう。</div>
	(2)		
ま と め （ 分	(3)		単元の評価規準を具体化し、本時において1～2観点を評価する。
	4 <div>まとめ</div>		
	5	<div>○下記の項目を参考にして適宜記載しましょう。</div> <div>・ 「めあて」と正対した「まとめ」について記述する。今日の授業で「何を学んだか」を明確にする。児童生徒の言葉を生かしてまとめる。</div> <div>・ 本時の学習で分かったことやできるようになったこと、次の課題などについて、児童生徒に振り返らせる。</div>	

板書計画も含めてA4 4ページで作成して下さい。

- (4) 板書計画（写真も可・項目だけでなく、実際に板書することを書く・ICT 機器の活用について）

例) 植物の体のはたらき(第6学年)

植物の体のつくりとはたらき

めあて

植物の体を水はどのように流れているのか


予想

①植物のどこまで運ばれるのか
・体全体に運ばれる
しおれた植物が水をあげたら元気になるから。
②植物の体のどこを通るのか。
・決まった通り道がある。
・決まった道はない。(茎全体を通る)

方法

色水を吸わせて、植物の色の変化を調べる

結果




・根・茎・葉とも全体的に染まっている。
・茎の断面で色が染まっているところがある。

考察

根から吸い上げられた水は根・葉・茎の決まった通り道を通っていると考えられる。なぜなら、実験で切り口の決まったところが染まっていたからである。

発展



2色の色水を吸わせるとどうなるだろうか。
・2色に分かれて色が染まる
・混ざって色が染まる。

まとめ

根から吸い上げられた水は根・葉・茎の決まった通り道を通り植物の体全体に運ばれる。